原著

肺/初期變化竈/氣管枝破入ニ依ツテ生ゼレ 多發性結核性小腸潰瘍/治癒的經過 チ取レル惡性貧血/一例

新渴醫科大學病理學教室(主任 川村教授)

副 手 坪 谷 毅 一

目 次

第一章 緒 言第二章 實驗例

第三章 機括並二考按 第四章 結論 文獻

第一章 緒 言

病理解剖學上結核性腸潰瘍ハ治癒ノ傾向ラ示スモノ尠カラザルモ多養性ニ發生セル場合ハ之が完全ナル治癒ハ稀ナリトセラル。我が國ニ於テハ黑丸氏ハ二次性腸結核屍208例中完全治癒ラ僅ニ3例(1.44%)ニ於テ報告セリ。

余ハ惡性貧血ノー女屍ノ剖檢ニ於テ偶然カクノ 如キ所見ヲ見出シ、而モ此病變ハ右肺上葉ニ存 在セル結核性初期病竈ノ氣管枝穿入ニョル結核 菌ノ爲メ惹起セラレタリト思ハル、興味アル例 ヲ經驗セルヲ以テ妶ニ之ニ就テ報告セントス。

第二章 實驗例

38歳 女 産婆

臨牀診斷 惡性貧血

臨牀所見 血族遺傳的關係 認ムバキモノナシ。 既往症 死亡凡ソ15年前吞酸、嘈囃、惡心、嘔 吐等ナカリモシ食後及空腹時胃痛ヲ覺エ食後長 ク胃腸膨滿シ下痢ヲキタシ食慾振ハズ全身倦怠 ヲ覺エ羸痩セルコトアリキ。分娩普通3回。流 産ナシ。

現病歴 血液ノワ氏反應 陰性

本症ハ昭和9年6月頃吞酸、嘈囃、胃部膨滿感、 悪心、嘔吐、軟便、下痢、食慾不振等ノ胃腸障 碍が妊娠ニ依り誘發セラレ、昭和10年1月12日ニ分娩テ普通ニスマセタルモ更ニ増悪シ、昭和10年3月8日悪性貧血ノ疑ノ許ニ當大學第一內科ニ入院セリ。入院當初身體ノ何處ニモ浮腫ラ認メザレド榮養不良ニシテ皮膚乾燥シ且ツ蒼白ヲ呈シ粘膜モ亦貧血性ニシテ脈搏無數ナリキ。淋巴腺ノ腫大ナケレドロ內炎でリテ舌赤ク薄苔ラ被り舌先ニ小膿胞ヲ有シ齒齦ニ點狀出血ヲ認メ心尖ニ收縮期雜音ヲ頭靜脈ニ獨崇音ヲ聽取セリ。脾臓、肝臓、腎臓觸知セズ、腱反射常態、臨床的並ニ上線學的ニ肺、子宮及卵巢ニ異

變ナク、上線學的二胃腸ニ變化ヲ認メザリキ。 胃液ハ總酸度 30 遊牒廳酸 14 結合セル鹽酸 6 ニ シテ潜血ナク乳酸ラ證明セザリキ。糞便中二蛔 蟲卵ヲ認メタレド潜血ヲ認メザリキ。尿ハ調酸 性透明ニシテ蛋白、糖、「インデカン」共ニ(一)、 「ウロピリノーゲン」(十)、「ウロピリン」(一)、 白血球ヲ痕跡認メタルモ赤血球、圓柱及上皮細 胞等ヲ認メザリキ。血液ハ赤血球数176萬、網 狀赤血球 0.4%、軽度ノ不同大赤血球症竝ニ異 形赤血球症ヲ認メタレド有核赤血球ヲ認メズ、 血色素指數 1.4、白血球總數 2200、中性多形核 白血球 68.4 %、淋巴球 31.6 %、「エオジン」嗜 好多形核白血球、鹽基性多形核白血球、「モノチ ーテン」、「プラスマ」細胞及病的白血球ヲ認メ ズ、血小板 9600、血液沈降速度 (26°C) 1 時間目 55 耗ナリキ。

入院後3月15日頃ョリ尿中ニ蛋白及「インジカン」 チ證明シ沈渣ニ白血球増加シテ不定ノ發熱アリ、3月23日頃ョリ歯齦痛チ訴へ歯齦出血アリテ其處ニ潰瘍チ生ジ、又放尿痛、尿意頻し、違尿等膀胱炎ノ症狀漸次發現シ尿中ニ赤血球ヲ認メタレド膀胱炎治療施行後不定ノ發熱ナウス中ノ白血球數減少シ赤血球ヲ認メザルニ到レルモ「インデカン」、「ウロビリノーゲン」或ハ(+)ナリキ。又3月18日ヨリ肝臓療法ヲ施シ3月25日、4月4日、4月23日、5月3日4囘輸血ヲ行ヒタルモ4月18日頃ョリ足背ニ浮腫來タリ舌ニモ小潰瘍認メラレ此潰瘍其後徐々ニ増大セリ。5月3日兩脚ノ「シビレ」感更多減ニ昭和10年5月19日永眠セリ。

血液檢査ハ前後11 囘ニ亙リ行ハレタリ。之ヲ總括略記スレバ、赤血球數63 萬乃至176 萬ニテ増減不定ナリシモ大體ニ於テ漸減シ、網狀赤血球0.2%乃至2.5%ニシテ4月20日頃迄増加シソレヨリ減少5月8日頃ヨリ再ビ増加セリ。不同大赤血球症ハ輪血後ニ中等度トナレル外ハ異形赤血球多過症ト共ニ軽度ニシテ大赤血球ノ發現著明ナラザリキ、有核赤血球ハ5月1日後ニ僅

少發見セラレタルノミニシテ、血色素指數 ハ1.18 乃至 1.48 ニシテ一時的下降スルコトアリタレド常ニ1.0 以上ラ示メセリ。

白血球機數 2200 乃至 5200 ニシテ増減不定ナリキ。淋巴球ハ 16.0% 乃至 52.5% ニシテ相對的ニハ4月 6日迄増多ヲ呈シタレド以後ハ減少或・ハ正常ナリキ。骨髄細胞ノ發現1 囘モナカリキ。血小板 44000 乃至 339000 ニシテ増減不定ナリシモ大體ニ於テ漸減セリ。

剖檢診斷

- 1 液狀血液
- 2 貧血性諸臟器
- 3 肺水腫
- 4 心臓及肝臓ノ褐色萎縮
- 5 全身性水腫
- 6 赤色髓
- 7 兩側副腎ノ脂肪貧弱
- 8 表在性舌潰瘍
- 9 廻腸粘膜ノ表在性治癒性潰瘍
- 10 左腎ノ髓質纖維腫
- 11 右肺初期變化群
- 12 右側瀰蔓性鬆粗性肋膜炎
- 13 副膵臓

剖檢所見

剖檢ハ死後8時間20分ニ於テ行ハレタリ。 身長145糎、體重30瓩、骨格中等度、强度ニ 贏瘦、死剛ハ諸關節ニ於テ高度ニ發達セルモス 死斑ハ唯體下垂部ニノミ瀰蔓性弱紫赤色ニ出現 東山性蒼白濕潤ニシテ全身到ル處著明ニ水腫、力 山性蒼白濕潤ニシテ全身到ル處著明ニ水腫、力 、原部軽度ニ路型、腹腔カリ腫を下腫と ・腹膜ハ體壁及内臓部共ニ皮下腫を リ。腹膜ハ體壁及内臓部共ニ平滑ニシテ リ。腹膜ハ體壁及内臓部共ニ平滑に リリ腹腔ニ凡ソ50ccノ透明ナル液潴溜セリ。 大網膜ハ常位ニアリ脂肪、脾臓共ニ正常位置ニアリテ癒著ナカリキ。横隔膜ノ高サ左第五肋骨木 第四肋間腔、蟲樣突起ハ正常位ニアリテ癒著ナ

ゥ、膀胱ハ約 150ccm ノ尿ヲ藏シ、胃腸ハ含氣 性ニ可ナリ膨滿セリ。腸間膜ハ脂肪中等度ニ沈 著シ軽度ニ「ジエリー」様ヲ呈セリ。腸間膜淋巴 腺ハ多數米粒大ヨリ拇指頭大扁平ニ腫大シ表面 灰白色ヲ呈セリ。切割可能ナルモノ全部ヲ切割 **結権セルモ結核性變化認メラレズシテ制面全べ** テ體様ニシ秀軽度ニ褐色ヲ呈シ其中少數一部分 軽度ニ黒褐色ニ著色セリ。脾臓ハ大サ12.2×7.6 ×8.2糎、重サ 150 瓦、 被賽緊張シ平滑ニシテ 光濹アリ暗紫色ヲ呈シテ堅ク締リ割面血液ニ窩 メリ、脾實質ハ稍 と强固ニシテ濾胞ハ不明ナレ ド脾材ハ明ナリキ。肝臓ハ大サ24.9×14.0×6.2 糎、重サ920 瓦、表面一般ニ滑澤ナレド唯前面 ニノモ穩元豆大ノ纖維性癒著斑ヲ認メタリ。邊 **橡ハ甚ダ鋭利ニシテ硬度蕁常割面著明ニ褐色**ラ 呈シ小葉像ハ明ニシテ軽度ノ膽管肥厚ヲ認メタ ルモ靨ニヨリ肝臓「ヂストマ」ハ出デ來タラサリ キ。 膽嚢ハ約 15ccm ノ赤黄色ノ腺汁ヲ含有シ 粘膜ニ異常ヲ認メザリキ。左腎臓ハ大サ11.2× 5.0×3.2 糎、重サ145 瓦アリ被膜ノ剝離容易ニ シテ星芒靜脈ハ認メ得ラレ表面滑澤ニシテ硬度 彈力性硬固ナリキ。割面ハ一般ニ貧血性蒼白ラ 呈シ皮髓ノ境界明ニシテ髓質ニ粟粒大ヨリ少シ 大ナル繊維腫1個認メラレタリ。腎盂ハ擴大セ ズ粘膜ニ異常 ナカリキ。 右腎臓 ハ大サ 10.9× 5.0×2.9糎、重サ110瓦アリテ唯纖維腫ヲ認メ ザリシ外ハ左腎ト殆ド同様ノ件狀ヲ早セリ。副 腎ハ左7.0 瓦、右 6.5 瓦アリテ兩側共皮質 ノ 脂 肪減少シ且ツ髓質强固ナリキ。膵臓ハ重サ 90 瓦 アリ分葉像及硬度尋常ニシテ尾部ノ腹膜ニ黑褐 色ノ點狀出血斑1個認メラレタリ。 胃ハ約50 -ccm ノ液狀内容物ヲ有シ其粘膜加答兒性ニシテ 稍と肥厚シ皺襞ハ比較的少ナキモ顆粒狀ヲ呈シ 潰瘍及出血ハ認メラレザリキ。十二指腸粘膜ハ 貧血性ニシテ「ジエリー」様ヲ呈シ、總輪膽管ハ . 佳良通過性ナリキ。胃ノ幽門輪ヨリ下方約7糎 隔リタル十二指腸漿膜ニ大サ 1.0×0.5 糎ノ副 :膵臓個存在セリ。十二指腸以下ノ小腸及大腸ハ -少量ノ糞汁ヲ藏シソレ等ノ粘膜ハ高度ニ貧血性

軽度ニ加答兒性ヲ呈シ、小腸粘膜ハー般ニ非薄 ナリキ。結腸瓣ノ上方94糎隔リタル廻腸ノ漿 膜面ニ示指頭大1個 100 糎隔リタル同ジク廻腸 ノ漿膜面ニ拇指頭大2個黒褐色ノ出血斑認メラ レ、結腸瓣ヲ去ル4糎ノ個所ヨリ上ゟ 116 糎ノ 間即殆ド廻腸全長ノ粘膜ニ於テ27個ノ潰瘍散 在セリ。之ニ就テハ後ニ精配スベシ。蟲樣突起 **ハ粘膜ニ異狀ナカリキ。直腸ハ飮キ糞塊ヲ滿タ** シ粘膜高度貧血性ニシテ漿膜ニ3個ノ黒褐色ノ 點狀出血斑存在セリ。 膀胱ハ約 150ccm ノ普通 尿ヲ含有シ其粘膜ニハ肉柱像明ナリキ。腟、子宮 及卵巢ニハ異狀ヲ認メザリキ。胸腔ヲ開クニ胸 骨、肋骨及肋軟骨ニ異常ナク胸腺ハ殆ド脂肪化 セリ。兩側胸部ハ相對的ナレド左胸腔ニハ透明 ナル液約 300ccm 潴溜シ居り左肋膜腔全り癒著 シ居ラザリキ。然ルニ右肋膜腔殆ど全部繊維性 ニ即瀰蔓性鬆粗性ニ癒著セリ。心霽ハ約100ccm ノ透明ナル液ヲ含ミ其內面平滑ニシテ光澤アリ キ。心臓ハ重サ 230 瓦略ボ屍手拳大ニシテ冠狀 動脈ニハ蛇行、灰白色肥厚等ノ異常ナク外膜ハ 平滑ナリキ。心尖ハ左心室ヨリ形成セラレ心外 膜下脂肪組織ハ可ナリ豐富ナレド「ジエリー」様 ヲ呈セリ。兩側心內腔ニハ稀薄液狀血液ヲ含有 シ兩心室擴張セズ左心房ニ刺針大ノ點狀出血1 個存在セリ。大動脈圓錐部ニ於ケル厚サ1.0種 肺動脈圓錐部ニ於ケル厚サ 0.3 糎ナリキ。心筋 ハ可ナリ褐色ヲ帶ビ心内膜及總テノ瓣膜裝置ニ 異常ヲ認メズ卵圓孔ハ全ク閉鎖シ大動脈起始部 ノ内膜ハ殆ド平滑ナリキ。左肺容積稍、縮小シ 表面網狀ヲ爲セル纖維素性物質ニテ被覆セラレ 前上肋骨面及縱隔竇面ニ少シ强々灰白色ノ地ニ 黑色ノ斑紋散在セリ。肺臓ハ硬度一般ニ増加ス レド硬結ヲ觸知セズ割面全體强度貧血性ニシテ 加壓ニヨリ多量ノ漿液流出シ何處ニモ結核性病 竈ヲ認メザリキ。氣管枝及氣管枝粘膜ニ異常ナ ク肋膜ニ於ケル出血ハ不明ナリキ。肺門部淋巴 腺豌豆大迄黑色ニ腫大シ殆ド全ベテヲ切割精檢 セルモ結核性病變認メラレズ割面總ベテ炭末ニ 富も髓様ナリキ。右肺表面一般ニ左肺ヨリ黑味

少シ强ク諸處纖維性ニ被覆セラレ且ツ纖維性絮 片附蓍シ容積ニ宮ミ硬度彈力性服園ナリキ。上 葉ニ於テ胸縱隔面ト肋骨面トノ境界前縁ノ上部 ニ纖維性絮片附著シ纖維性ニ閉鎖セル上中ノ漿 間截痕部ニアリ此薬間隔壁ニ沿ヒテ楔狀ラナシ 肺根部ニ及で硬結存在ヒリ。此硬結部ノ下移ニ 沿に灰白色ヲ星シ輕度ニ肥厚セル肋膜中ヲ經過 スル淋巴管ノ注が肺根部ノ部局第一次氣管枝肺 淋巴腺ハ黑色ヲ呈シ 0.7×0.7 棚ニ腫大シ硬度 八全體ニ腸間ナルモー部特ニ硬キ處アリキ。此 淋巴腺ニ隣接シ硬結部ノ上カヨリ來タリ上述淋 巴管ト交通セル淋巴管ノ注グ部局第二次氣管枝 肺淋巴腺モ亦黑色ヲ呈シ硬度强固ニ 0.65×0.3 糎ニ腫大セルモ特ニ硬キ部分ナカリキ。以上2 個ノ淋巴腺ハ共ニ纖維性ニ厚ク被包セラレ第二 次氣管枝肺淋巴腺ハ然ラザルモ第一次氣管枝肺 淋巴腺ハ肺ニ堅ク癒著シ之ヲ取リ出スニ肺組織 ノ一部ヲ附著セシムルノ止ムナキニ至レリ。此 硬結部及硬結部ノ部局第一次氣管枝肺淋巴腺ニ 就テハ後ニ精記スペシ。第二次氣管枝肺淋巴腺 ノ割面皮質ノ大部分ト髄質ノ一部髄様ニシテ他 ノ大部分黑色ニ硬化シ結核病竈ヲ認メザリキ。 其他ノ所見殆ド左肺ト同ジカリキ。骨髓、大腿 骨骨髓ハ實質性ニシテ全ク赤色化セリ。頸部臟 器ヲ看ルニ、否ノ兩側邊緣ニ各1個ヅ、豌豆大 ノ潰瘍ヲ認メタレド扁桃腺及舌根ニハ認メラレ ザリキ。咽頭、喉頭、氣管及食道ノ粘膜ハ强度 二貧血性ヲ呈セル外變化ナカリキ。

 りゃ。

組織的所見。'

血液ノ心嚢液ノユ氏反應共ニ陰性

檢査方法 切片標本ハ全テ H. X.-Eosin 重染色ト Van Gieson 氏結精織染色テ施シ必要ニ 應ジテ Weigert 氏輝力纖維染色更ニ之ニ Van Gieson 氏結精織染色 チ加へタルモノ Ziehl-Neelsen 氏結核構染色或ハ「メチーレンブラウ」液ニ後染スル代リニ「ピクリン」酸飽和水溶液ニ後染シタルモノ Sudan ■ 脂肪染色 H. X. 單染色 Giemsa 液染色 Perls-Stiede 氏「ベルリン」青反應法ヲ使用セリ。

組織的所見ハ小腸ノ潰瘍右肺上薬硬結都及部局 第一次氣管枝肺淋巴腺ラ除キ他ノ**臓器**ニ就テ弦 ニ記載セリ。

肝臓 グリソン氏鞘ニハ膽管ノ増殖ハ認ノラレザルモ結締織ハ可ナリ高度ニ増殖シ所を中心靜脈ノ周剛ニ少シノ小圓形核細胞浸潤ヲ伴ヘル僅少ノ結締織増殖ヲ認メタリ。脂肪ハ少ク小葉リ肝細胞内ニハ褐色色素顆粒ヲ中等量ニ認メ殊ニ中心部ニ於テ州各色色素顆粒ヲ中等量ニ認メ系ニ中心部ニ於テ州各の一方が、クロ・アリ鐵反應ニテハ此顆粒陽性ヲデシ、ヘモジデリン」顆粒ナルコトヲ明ニセリ。Kupffer氏星芒細胞中ニモ此色素ヲ少量認ムルモ脂肪滴ハ認メラレザリキ。肝毛細管ニハ鬱血ナク多形核白血球比較的多數認メラレタレド赤血球喰現象ハ認メラレズシテ有核赤血球、骨髓細胞少數出現セリ。

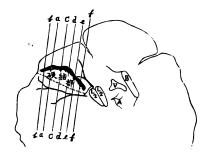
牌職 賃賃血液ニ富 i 鴻胞可ナリ縮小乃至消失シ牌資少シ擴張シテ牌髓細胞ハ瀰蔓性ニ増殖シ居レリ。「ベルリン」青反應陽性ナル「ヘモジデリン」ハ比較的大ナル褐色色素顆粒ラナシ細胞ノ内外ニ多量ニ沈著シ中等量ノ普通有核赤血球ト少数ノ骨髓細胞出現シ稀ニ大有核赤血球テ認メタルモ赤血球喰現象ハ認メラレザリキ。骨髓 「ヘモジデリン」顆粒相當多量ニ網樣內被細胞內ニ沈著シ巨大有核赤血球ニ富:無顆粒ノ骨體母細胞多ク赤血球觀現象ハ認メラレザリ

+。骨髓性巨態細胞ハ減少シ及之ガ著シク分葉 狀ヲナセルモノアリキ。心臓 心筋繊維ハ萎縮 性ニシテ脂肪ハ極メテ微量ニ沈著シ消耗性褐色 **色素中等度ニ認メラレタリ。間質ニ戀化ナカリ** +。大動脈 内膜層ニ脂肪少量認メラレタリ。 腎臓 鐵反應陰性ニシテ「ヘモジデリン」ノ沈著 ナク細尿管ノ潤管部集合管ノ上皮及絲砂體ニ脂 肪少重沈蓍セルモ主部ニハ認メラレザリキ。副 腎 皮質ノ毬狀層强度ニ萎縮シ毬狀層及網狀層 ニ脂肪ヲ尠シク認メタルモー般ニ皮質ノ脂肪微 量ナリキ。又髓質ニモ極メテ微量ノ脂肪ヲ認メ タリ。膵臓 ラ氏島ノ萎縮セルモノ存在セシ外 特記スペキコトナシ。甲狀腺 濾胞ノ大サ不同 ニシテ膠様質濃淡種々ノ程度ニ染色シテ充満シ 上皮ノ内腔へノ剝離少シアルモ濾胞間壁ノ消失 融合間質結締組織ノ硝子樣變性ハ認メラレザリ +。陽間膜淋巴腺 殆ド全部ノ淋巴腺ヲ結細ニ 鏡檢セルモ類上皮細胞結節、乾酪變性竈、萎縮 セル上皮樣細胞結節、結締織化セル上皮樣細胞 結節, 硝子樣化竈、白堊化竈、 石灰化竈等認メラ レザリキ。皮膜及梁ニ結締織尠シク増加セルモ ノアリ又多少ニ拘ラズ赤血球喰現象認メラレタ り。此喰現象ハ主トシテ縁竇ニ認メラレ赤血球 數ハ1個或ハ數個ニシテ多クハ無核ナレド時ニ 有核ノ赤血球モ少數認メラレタリ。又淋巴腺ニ ハ多少ニ於テ「ヘモジデリン」色素ノ沈著アリ喰 セラレテ崩壊セル赤血球ノ鐵反應ハ淡綠色雲絮 狀ニ幽カニ陽性ナリキ。更ニ普通有核赤血球及 骨髓細胞發現セルモ大有核赤血球ノ發現稀ナリ キ、實質内ニ小出血ヲ認メタルモノ少數アリ又 稀ニ竇中ニ赤血球中等度ニ充満セル淋巴腺存在 セリ。胃 胃腺萎縮性ニシテ粘膜固有層ニ軽度 ノ小圓形核細胞浸潤ヲ認メタルモ粘膜下組織ソ ノ他ニ變化ヲ認メザリキ。大腸限局性平滑ニシ テ異常アルラシク見受ケラレタル部分9個所ラ 鏡検致シタレド一般ニ粘膜固有層ハ萎縮性ニシ テ輕度ノ小圓形核細胞浸潤ヲ認メ所ニヨリ特ニ 粘膜固有層薄ク結締織周圍ヨリ尠シク密ナリシ 以外ニ變化ヲ認メザリキ。小腸、粘膜固有層一

設ニ輕度萎縮性ニシテ廻腸ノ上部ニ孵度下部ニ 中等度ノ小圓形核細胞浸潤(主トシテ少數ノ「ブ ラスマ」細胞ヲ混ズル淋巴球)ヲ認メタリ。肺 一般ニ肺胞壁菲療水腫様ニシテ毛細血管中ニ赤 血球少数ニ認メラレ肺胞中ニハ「エオジン」ニ冷 染セル漿液充満 シ僅少ノ細胞及纖維素ノ析出ヲ. 認メタリ。左右肺門部、氣管分岐部及氣管側淋 巴腺、存在セル殆ド全ベテノ淋巴腺ヲ精細ニ鏡 檢セルモ右肺部局第一次氣管枝肺淋巴腺ヲ除ク 他ノ淋巴腺ニハ組織化セル類上皮細胞結節ラシ キモノ2個ヲ認メタル外結核性病資認メラレズ 一般ニ炎症性硬化强ク多少ニ於テ赤血球喰現象 ヲ認メタリ。又淋巴腺ニハ多少ニ於テ「ヘモジ デリン」色素沈著セルモ結締織ニテ硬化セル部 分ニハ「ヘモジデリン」色素ヲ認メザリキ。 更ニ 普通有核赤血球及骨髓細胞發現セルモ大有核赤 血球ノ發現稀ニシテ寶質内小出血ハ認メラレザ リキ。炎症性硬化、赤血球喰現象「ヘモジデリ ン」沈著ハ下部ノ淋巴腺程强ク上部ノ淋巴腺程 弱カリキ。

主要ナル部分ノ肉眼的及組織的所見 I. 右肺ノ硬結部内眼的所見 右肺硬結部ヲ肺ノ縦軸ニ平行シテ

> 右 肺 上 部 胸 縱 隔 面 (附圖第1圖參照) 肺 尖



L 小淋巴腺 B ハ氣管枝 V 小静 脈 A ハ動 脈 點線ハ上中ノ葉間截痕 黒線ハ淋巴管

上圖ニ示ス aa 線部ヲ切割セルニ上葉ニ於テー

部黒色ヲ呈シ硬化セル肺實質中ニ胸縱隔肋膜及 上、中、兩葉間隔壁ニ接シテ大サ 0.6×0.5 糎 ノ不正腎臓形ヲ爲セル病臓アリテソノ中心部ニ ハ灰白色粉狀ノ乾酪物質存在シ此乾酪部ノ中心 部ハ白色ノ硬キ石灰沈著ヲ來タシ其周闡ハ灰白 色ノ硝子様纖維性被囊ニテ被包セラレ居レリ。 又此病竈ノ輕度ニ灣入セル部分ニ cc 線切割面 ニ於ケル病竈ト全ク其性狀等シキ娘結節ト認ム 可キ極メテ小ナル病 1個存在ヒリ。bb 線部ラ 切割セシニ病竈被嚢ノ一部僅ニ認メラレタリ。 cc線部ヲ切割セルニ一部黑色ヲ呈シ限局性ニ硬 化セル肺實質中ニ帶黃白色粉狀ノ乾酪物質ガ灰 白色硝子樣纖維性被囊ニテ被包セラレ居ルモノ アリ其大サ0.7×0.7糎、0.3×0.3糎、0.2×0.1 糎、0.1×0.1 糎ノモノ、外小ナル爲メ測定不能 ノモノ1個即圓形3個橢圓形2個計5個ノ病竈 存在セリ。dd 線部切割面(附圖第2圖)ハ其所 見大體 cc 線部切割面ニ等シ。ee 線部切割面ニ ハ cc 線部切割面ニ於ケルガ如キ所見ノ肺實質 中ニ帶黃灰白色寒天樣或ハ帶黃白色粉狀ノ乾酪 物質アリ上述病竈被囊ヨリ僅少ニ薄キ灰白色ノ 被嚢ニテ被包セラル、大サ 0.6×0.5 糎、0.4× 0.4 糎、0.45×0.25 糎ノ圓形 2 個卵圓形 1 個計 3個ノ病竈相接シテ存在セリ。ff 線部ヲ切割セ ルニ壁尠シク肥厚セルガ如キ氣管枝認メラレタ ル外異變ナカリシヲ以テソレヨリ尠シク右肺前 **縁ニ寄リタル部分ヲ切出セルニ帶黃灰白色軟キ** 寒天樣乾酪物質ヲ含有セル大サ 0.4×0.4 糎鉛 筆大ノ氣管枝認メラレ其周圍ノ肺實質尠シク膨 脹不全狀態ヲ呈セリ。

Ⅱ. 右肺硬結部組織的所見

aa 切割面 病竈ノ乾酪物質ハ元ノ彈力纖維ノ造構 (Gerüst) ヲ有スル無構造質ヨリ成リ其中心部ニハ彈力纖維造構ニ關係ナク多量ノ石灰沈著シ又乾酪變性部ノ周邊ニハ少量ノ石灰瀰蔓性ニ沈著シ居リ同時ニ少量ノ炭粉認メラレタリ。被囊ハ内側ノ硝子樣被囊ト外側ノ普通膠性纖維被囊ョリ成リ此內外被囊共ニ下記部局第一次氣管枝淋巴腺ニ於ケル病竈被囊ョリ薄カリキ。硝子

様被嚢ト乾酪物質トノ境界部ニハ炭粉少量ニ沈 者シ且ツ此被嚢ョリ Van Gieson ニ紅染セル 繊細ナル繊維ガ乾酪物質中へ斜ニ入り込も居レ リ。被曇ノ一部ハ胸縱隔肋膜及上中兩葉間隔壁 ニ接續シ其接續部ニ於ケル肋膜及隔壁ハ肥厚シ 其肺肋膜ノ彈性纖維限界層ニ沿ビ多量ノ炭粉沈 著セリ。又病竈周圍ノ肺實質高度ノ炭症性硬化 ニ陷リ彈力機維ハ强度ニ收縮シ縮毛狀或ハ屑狀 ヲ呈セリ。娘結節病竈ハ同様ノ被囊ニ被包セラ レ乾酪物質中ニハ石灰 / 沈蓍全 ク 無ク 75 倍以 下ノ擴大ニテハ認メラレズシテ300倍以上ノ擴 大ニ於テ認メ得ラル、溶解核ノ崩壊核ノ極メテ 僅少が認メラル、ノモナリキ。是等兩病鑑問ニ ハ管腔内ニ少量ノ乾酪物質(無構造質)ラ含有シ 壁ニハ病的變化全ク認メラレザル2本ノ氣管枝 梢ノ斜断面認メラレタルモ何慮ニモ Langhans 氏巨態細胞(爾後ラ氏巨態細胞ト記ス)結核菌及 化膿菌ハ認メラレザリキ。cc 切割面 此切割面 ニ於テ認メラレタル5個ノ病竈大體 aa 切割面 ニ於ケル娘結節病竈ニ等シキ所見ヲ呈シタレド 乾酪物質中ニ明ニ炭粉ヲ認メタル病資存在シ又 硝子樣被囊ノ普通膠性纖維被囊へノ移行部ニ於 テ上皮様細胞及ラ氏巨態細胞ヲ認メタル病竈2 個存在セリ。病竈周圍及病竈間肺實質ハ慮脫硬 化ニ陷り此硬化部ノ外方ニ擴張不全性肺實質ア り更ニソノ外方ニハ氣腫狀ヲ呈セル肺實質少量 存在セリ。硬化肺實質ニハ小圓形核細胞(主ト シテ「ブラスマ」細胞ヲ混ズル淋巴球)可ナリ强 度ニ浸潤シ小結節狀ヲナセルモノ4個認メラレ タリ。結核菌及雑菌共ニ(一)。

ee 切割面 此切割面ニ於ケル病竈所見ハ大體 cc 切割面ニ於ケル病竈所見ニ等シケレド此切割面ニ於ケル3個ノ病竈中1個ハ軟骨片ヲ有スル氣管枝病竈ニシテ管腔中ニハ退行變性核片ヲ極メテ少數ニ認ムル無構造質及多數ノ退行變性核ト無構造質ヨリ成ル膿様物質充滿シ膿樣物質中ニ崩壞結核菌3個認メラレタリ。氣管枝病竈ノ氣管枝壁ハ粘膜下層ニ上皮樣細胞及ラ氏巨鸌細胞認メラレソレヨリ漿膜側ニ小圓形核細胞中

1 ...

生度ニ浸潤シ軽度ニ肥厚シテ彈力機能迂曲蛇行 シ血管ハ多ク結締織性ニ閉塞セリ。他ノ2個ノ 病畜中1個ニハ硝子様被奪認メラレズシテ比較 的意キ少量ノ小園形核細胞浸潤ヲ有スル普通際 性繊維被囊ノミ存在シ他ノ1個ニハ瀧キ硝子様 補棄存在セリ。病職周圍及病職間ノ肺膏質ハー 都盧脫性硬化ヲ一部膨脹不全ヲ示メセリ。ff 切 割面 此切割面ニ認メラレタル病竈ハ軟骨ヲ有 スル氣管枝病竈1個ニシテ管腔中ニハ少數ノ退 行發性核片ヲ有スル少量ノ無構造物質及多數ノ 退行變性核ト多量ノ無構造物質トヨリ成ル膿様 物質充滿シ膿様物質中ニ完全ナル結核菌少數認 メラレタリ(附圖第3圖參照)。氣管枝壁モ侵カ サレ居り壁ニ定型的ラ氏巨態細胞ヲ有スル組織 **強性細網形成層 (緒方) ガ組織化 シツ、アル小ナ** ル乾酪變性結節1個認メラレタリ。此氣管枝ト 胸縱隔肋膜トノ間ノ肺實質可ナリ强度ニ硬化シ 中ニ小ナル乾酪變性竈1個認メラレタリ。又氣 管枝ノ胸縦隔肋膜側ト反對ノ側ニ於テハ少量ノ **肺實質軽度ニ氣腫狀ヲ呈セリ。而シテ病竈周圍** ノ肺胞壁ハ淋巴球少々繊維生成細胞ニ富メリ。

■. 右肺硬結部ノ部局第一次氣管枝肺淋巴腺肉 眼的所見

此淋巴腺ヲ切割セルニ黒地ニ帶黄白色粉狀ノ乾酪物質ヲ灰白色硝子樣纖維性被囊ヲ以テ包ミタル卵圓形 0.25×0.2 糎ト圓形 0.2×0.2 糎ノ2 個ノ病竈明瞭ニ出現セリ。兩竈ハ線狀ノ黑色實質ニョリテ隔テラレ居リ大ナル卵圓形ノ病竈被囊淋巴腺皮膜ニ接續シ其接種セル部分ノ皮膜肥厚シテ白色螺樣ヲ呈セリ。又實質ノ一部分皮膜ノ突入セルガ如ク硬化シ居レリ。

IV. 右肺硬結部 / 部局第一次氣管枝肺淋巴腺組織的所見

皮膜肥厚シ肺ニ癒著セル部分ニ於テハ肋膜ト共ニ厚皮ヲ形成シ其癒著部ニ於ケル病竈近接部ノ 肺實質虚脱硬化ニ陷リ虚脱硬化部周圍ノ肺實質 軽度ニ氣腫狀ヲ呈セリ。病竈ハ中心部彈力機維 染色ニ於テモ何等ノ造構ヲ認メザル無構造ノ乾 酪變性物質ヨリ成リ大ナル方ノ病竈ノ乾酪變性

物質中ニハ溶解核、崩壊核ノ残骸ヲ影ノ如ク葎 ク 300 倍以上ノ擴大 (75 倍以下ニテハ認メラレ ザリキ) ニ於テ僅少ニ認メ小ナル方ノ病鼈ノ乾 酪變性物質中ニハ同様ノ残骸ラ大ナル方ヨリ尠 シク多数ニ認メタリ。此中心部ノ乾酪變性物質 ノ外周ヲ硝子様(或ハ硝子様軟骨様)被霽輪狀ニ 被包シ兩者ノ境界部ニハ炭粉僅少ニ沈著シ所ニ ョリテハ被霧ョリ乾酪物質中へ繊細ナル繊維放 線狀ニ入り込え居レリ。此硝子樣被囊極メテ僅 少ノ萎縮核ヲ有スル殆ド同質ニ見ユル繊細ナル 繊維ヨリ成り外方へ行クニ從ヒ漸次繊細ナル機 維ハ其太サラ増シ萎縮核ハ萎縮ノ度減弱シテ明 トナリ更ニ淋巴球加ハリ輪狀ニ走行セル機能一 部斜ニ走リテ普通ノ膠性繊維被囊ニ移行セリ。 此普通膠性繊維被囊ノ纖維モ亦大體輸狀ニ走行 シ其外周淋巴腺實質ヨリ遙ニ淋巴球ノ含量少量 ナリキ。而シテ此内外兩被囊ニハ彈力纖維全ク **認メラレザリキ。兩病竈間ニハ線狀ノ竇アリテ** 炭粉ハ可ナリ多量ニ沈著シ「ヘモジデリン」モ中 等量ニ沈著セリ。病竈ニハラ氏巨態細胞、結核 **菌及其他ノ雞菌認メラレズ竇殊ニ綠竇ニハ赤血** 球喰現象盛ニシテソノ他ノ所見ハ旣述肺門部淋 巴腺ニ等シカリキ。

₹. 廻腸潰瘍ノ肉眼的所見

廻腸ニ存在セシ潰瘍数ハ27 ニシテ之ヲ全周ニ 於テ邊縁ヲ有スルモノト有セザルモノトニ二大 別スルヲ得タリ。

A. 全周ニ於テ邊縁ヲ有スルモノ

極メテ淺ク陷凹シテ其形圓形、類圓形、長圓形、 橢圓形ヲナシ大サ一般ニ小ニシテ文獻上「レンズ」狀結核性濾胞性潰瘍ニ相當シ潰瘍周圍ノ粘膜ニ放線狀ノ皺襞ヲ認メシモノ極メテ少數存在 セリ。又潰瘍部腸壁周圍ヨリ軽度ニ硬固ノモノ 少數存在セリ。邊緣ハ灰白色ヲ呈シ隆起スルコ トナク鋸齒狀ヲモ呈セズ鑿入モナク平滑ナリ キ。潰瘍底ハ多ク周圍ヨリ灰白色强ク平滑ニシ テ光澤アリタリ。聚膜面ニツキテハ次ノモノト 共ニ總括的ニ後記スペシ。

B. 全間二於テ邊線ヲ有セザルモノ

其形種々ナル不整形ヲナシ輕度ニ陥凹セルモノ 殆ド平坦ナルモノ略 こ 同數ニ存在 シテ平坦ナル モノハ部分的邊緣ノ存在ニョリ其形ラ推定シ又 潰瘍ノ存在ヲ知ルヲ得タリ。大サ比較的大ナル モノ存在シ此潰瘍ノ多クハ文獻上ノ結核性潰瘍 ニ相常シ潰瘍周圍ノ粘膜ニ輕度ノ放線狀ノ皺襞 ヲ認メシモノ極メテ少數存在セリ。又潰瘍部腸 特周間ヨリ 概度 ニ 硬固ナリシモノ 多數存在セ り。部分的ニ存在セシ涛級ハ灰白色ラ星シ平滑 ニシテ鋸歯狀ヲ呈セシモノ尠ナク輕度ニ隆起セ ルモノト然ラザルモノト存在シ降起セルモノ、 中ニハ丸味ヲ帶ビテ突出シ且ツ鑿入セル爲メ小 「ピンセット」ニテ飜轉シ得タルモノ存在セリ。又 邊緣ナキ部分ハ潰瘍ノ境界不明ナリキ。潰瘍底 ハ多ク周圍ヨリ强度ニ灰白色ラ星シ平滑ニシテ 光澤アリタレド少數周圍ノ粘膜ト等シク小顆粒 狀ヲ呈セリ。漿膜面ニツキテハ前者ト共ニ總括 的ニ後記スペシ。

全潰瘍ヲ通ジテ大サ最小 0.3×0.3 糎最大 2.3 ×0.7 糎ニシテパイエル板ニ生ジタルモノナル コト明ナルモノ稍く多數存在セリ。形八圓形、 類圓形、橢圓形、長圓形、長方形及多角形ノ不整 形ヲナセシモノ多數ニシテ殊ニ不整多角形ノモ ノ多カリキ。又長キ形ノモノニアリテハ腸ノ縱 軸ニ直角ノケ向ニ存在セシモノ極メテ少ク平行 ニ存在セシモノ多カリキ。潰瘍部腸壁ノ肥厚萎 縮ヲ示メセルモノ少數ニシテソノ度モ亦輕度ナ リキ。漿膜面ハ全ベテ灰白色ヲ呈シ結核結節ヲ 認メザリシモ放線狀ニ在ラザル限局性皺襞ヲ有 セシモノ纖維性絮片ノ附著セシモノ極メテ少數 存在セリ。但シ黑褐色ニ蓍色セル粘膜部ニ存在 セル潰瘍ハ何レモ黑褐色ヲ呈セリ。又潰瘍ニハ アラザルモバイエル板ノ大部分平滑ニシテ硬ク 周圍ノ粘膜ト同様ナル光澤ヲ有シテ平坦ヲナセ ルモノ個存在セリ。

VI. 廻腸潰瘍ノ組織的所見

潰瘍ノ物質缺損ガ筋層ニ迄及ビ結締織ニテ修理 セラレ居リタルモノ少數存在セシ外ハ何レモ潰 瘍性破壊後クシテ粘膜下層ニ**止**マリ居レリ。邊

繰ハ多數ノ潰瘍ニ於テ多少ハ存スレド鑿入シ居 り 漫縁並 ピニ底部ハ廻腸下部ニ存在セシ唯2個 ノ潰瘍ニ於テ縮小核、崩壞核及ピ多數ノ多形核 白血球ラ有スル壊死組織が限局性ニ附著セル外 ハソノ大部分結締織織維ニテ被覆セラレ中ニハ **更ニ鑿入部及底面ノ鑿入部近クニ於テ圓柱上皮** ノ再生ヲ認メシモノ少數存在セリ。該壞死組織 ノ兩側ニハ强度ノ小圓形核細胞浸潤ヲ有スル歳 ハ殆ド有セザル結締織隣接シ漿膜側ノ粘膜下組 織ニハ殆ド細胞浸潤ナク結締織増殖セリ。潰瘍 **面ノ結締織繊維ニテ被覆セラレ居ラザリシ部分** ニハ必ズ小圓形核細胞浸潤强度ニシテ類上皮細 胞混在セリ。又潰瘍面ノ結締織機維ニテ被覆セ ラレ居りシ部分ニハ上皮様細胞ラ有スル小圓形 核細胞浸潤存在セルカ或ハ細胞浸潤殆ドナキ上 皮樣細胞ヲ有スル結締織存在セリ。而シテ後者 ノ部分ハ筋層迄殆ド細胞浸潤ナク前者ノ部分ハ 紫膜側へ行りニ從ヒ細胞浸潤ハ急ニ減少シテ軽 度トナリ居レルカ或ハ漸減シテ中等度トナリ更 ニ輕度トナリ居レリ。又物質缺損深キ潰瘍ニ於 テハ細胞浸潤ハ或ハ筋層迄或ハ漿膜迄及ピ爲メ ニ或ハ筋層ノ間ニ細胞浸潤ヲ有スル結締織ノ闇 隙ヲ生ジ或ハ漿膜ノ結締織性肥厚ヲ來タシ居レ り。サレド斯ルモノ極メテ僅少ニシテ繋膜ハ勿 論筋層ニモ異常ナキモノ多カリキ。潰瘍面ト筋 層トノ間殊ニ筋層ニ近キ粘膜下層ノ細胞浸潤ラ 中等度或ハ輕度ニ有スル或ハ殆ド有セザル結鱅 織中ニ稀ニハ筋層間ニ或ハ漿膜ニ小結節トモ構 シ難キ5乃至10ノ上皮樣細胞群簇可ナリ存在 シ多數が結締織ニ完全ニ被包セラレ輕度或ハ中 等度組織化セリ。又斯カル類上皮細胞群簇中ニ 巨態細胞 ラシキモノヲ 有 セシモノ 數個存在セ リ。細胞浸潤ハ全潰瘍ヲ通ジテ廻腸下部ニ於テ ハ少數ノ「ブラスマ」細胞ヲ混ズル淋巴球ニシテ 其度强ク上部へ行クニ從ヒ「プラスマ」細胞増加 シ建ニハ淋巴球ト同數位ニ存在シ細胞浸潤ノ度 モ亦漸次減弱シ中等度トナリ居レリ。又漿膜ノ 細胞浸潤ニハ「プラスマ」細胞比較的多數ナリ キ。而シテ邊緣ノ隆起ハ細胞浸潤ト結締織ノ増

1. 粘膜下層ノ瘢痕化

- 2. 粘膜下層ニ小結節トモ稱シ難キ 組織化セル 額皮細胞群簇少數存在セシコト
- 3. 粘膜固有層ノ形異ナルコト
- 4. 粘膜筋層殊二其筋層中ノ彈力纖維ノ消失等 之ナリ。余ハ偶然唯1個ノ全ク完全ニ修理セラ レ内眼的ニハ全然異常ヲ認メズミテ顯微鏡的ニ 濾胞3個ノ中2個瀰優性ニ周圍ニ浸潤セル粘膜 下層ノ籔痕ヲ發見セリ。該壞死組織ノ中其他何 處ニモ結核菌ハ認メラレズシテ唯壞死組織ノ中 潰瘍面及侵害セラレザル腸壁粘膜面ニ於テ「メ チーレンブラウ」液ニテ青染セル桿菌(恐ラク大 腸菌ナラン)ヲ認メタルノミナリキ。

第三章 總括並二考按

本例ノ結核病量の右上葉ニ於テコレト中葉トリ境界部ニアリ、複狀テナセリ。結核性肉芽組織 殆ドナクソノ中央部乾酪愛性ニ陷リ居レルモ 間 園の結締織被膜ニテ被包セラレ居レリ。ソノア 整度ノ石灰沈著ヲ證明セルガソノ他ノ部ハ軟で 事度ノ石帳機軟化物トナリ所屬ノ氣管枝ニ破シシー・大変を また 一次氣管枝肺淋巴腺内ニモ結締織ニテ被包セラレタル乾酪・シスト と ニハ石灰愛性ハ認メラレザリキ。

今本例ノ所見ヲ Puhl ノ原袞竈ト再感 竈トノ比較表

	原簽竈	再感奮
位 置	各葉下部ニ多シ 特ニ助膜下	各葉上部ニ多シ 深度不定
數	普通一個	通例數個
彩 狀	球 形	不正形
境界及被囊	境界鋭利被臺灣 シ	境界不明被囊厚 シ
周圍組織	正常	硬化ス
石灰化	著 明	着明ナラズ
化 骨	著 明	稀ナリ
局所淋巴腺	特殊變化ヲ認ム	特殊變化ヲ認メ ズ

- 照合シ考フル時ハ原發竈トシテハ二三之二符合セザルモノアレド肺及ソノ他體部ニ初期變化群ト見做スペキ病變ハ認メラレザリシニ依り右肺ノ結核性變化サ以テ初期變化群ト見做シ得ペキモノト思惟へ。

凡ソ人體ニ於ケル結核感染ハ其大多數(90%)ハ 小兒期末迄ニ起り得ルモノナルハー般ニ信ゼラ レ居レドモ、近時我 ガ衂ニ於 テハ臨床上有馬 (英)、菊地、松田ノ3氏ハ健康ト見做サレ居ル 札幌市某小學兒童 807 名ニツキテ「ピルケー」反 應ニテ調査シ其結核感染率 42 % ト報ジ、 有馬 (英)、山科、不破ノ三氏ハ北海道第7師團新入 兵士 2854名 ニツキテ同法ニテ調査シ 其結核感 染率 55% ト報ジ、 又有馬(英)、 正田兩氏ハ昭 和4年5月ヨリ6月ニ亙リ所謂健康ナル青年期 札幌市某中學生 1227 名ニツキ結核感染率 73.1 %ヲ得、是等ノ成績ヨリシテ有馬氏ハ人類ノ結 核感染ハ決シテ主トシテ少年期ニ於テノミ行ハ ル、モノニ非ズシテ青年期及ソレ以後ニ於テモ 可ナリ名キモノナルコトラ確メタリ。卽氏ニ依 レバ人類ノ結核感染ノ時期的割合ハ、少年期ニ 於ケル感染ヲ約 ½ トスレバ青年期ニアリテハ 1/4 残餘! 1/4 ハ青年期以後ニ於テ營マル、モノ

ト見做シ得ト。

小林氏ハ昭和6年我が海軍ノ壯丁ノ中約80乃至50%ハ未ダ「ツベルクリン」反應陰性ニシテ種々ナル理由ニョリ結核未感染者ト解スベキモノナリト。瀧本、深谷兩氏ハ北大附屬醫院ニ於テ1928年以降看護法講習生トシテ入學セル主トシテ北海道各地方出身ノ 驵巉ナル 女子青年207名 ニッキ半年ョリ4年半ニ亙リ健康狀態ラ觀察シ、新入當初ハ「ツ」皮內反應陽性率ハ43.4%ニテソノ中

都市出身者ハ陽性率 71% 町村出身者 陰性率 66.5%

ニシテ我ガ國現下ノ女子青年ニハ尚結核未感染 者相當アリ、是等ノ中初感續發性結核ニ罹患ス ルモノ又可ナリアルモノト云フコトラ得ト報告 シ居レリ。

更ラニ病理解剖組織學上ノ檢査成績ニ依レバ、 緒方氏ハ結核初感染ノ時期ハ歐人ト邦人トノ間 ニ差異アリ、即 Ghon ャ Schürmann ノ例ニ ョレバ5乃至6歳位迄ニ初感染ヲ蒙リ邦人ハ15 乃至20歳位迄ノ間ニ初感染ヲ蒙ルモノラシト。 沓掛氏ニ依レバ青年期以後高齢者ニ於テモ尚ォ 幼若ナル初感原發竈ヲ見ルコトハ注目ス可キ事 實ニシテ、氏ノ例ニ於テモ 50 歳以上ノ者ニ於テ 乾酪變性竈ノ像ヲ呈スル初期ノ結核性病戀ヲ有 スルモノ 122 例中 15 例 アリシト、 又 Schürmann, 岡等ノ材料ニ於テモ 同様ノ症例 ヲ 證明 シ居ルヲ以テ、斯ノ如キモノガ若年時ニ生ジテ 其儘維持セラレタリトハ思考セラレズシテ相當 高齢ニ達スル迄結核ノ感染ヲ受ケズシテ高齢ニ 及ンデ初メテ初感染ヲ感受シタルモノト看做ス 可キゼノナリト。

又福田氏 / 肺初感染竈 33 例中 26 歳以上ニシテ 乾酪變性竈ナリシモ / 3 例アリ。我ガ國ニ於テ ハ青年期以後 / 初感染居住地ト貧富 / 差ニョリ 多少 / 相違 アランモ 存在 スルコトハ最早 疑ナ シ。

今此初感染期ニ關シ本例ラ考察スレバ右肺結核 病竈ニ於テ硝子模被囊ト乾酪物質トノ境界部及 乾酪物質中ニ微量ナレド炭粉テ認メタルハ此病 竈ガ炭粉沈著後ニ生ジタル體ニシテ、又該病竈 所見ガ一般ニ比較的幼若ナリシニ依リ青年期以 後ノ感染ト看做ス可キモノナリ。

凡ソ肺ノ初感染竈ハ全ベテ必ズ治癒性ニアラズシテ進行性ニシテ或ハ慢性肺結核症ニ移行シ或ハ空洞ヲ形成スルモノ少數存在シ、又其間種をナル移行型ノ存スルコトハ肺ノ初期結核ニ關スル文獻ノ示メス所ナルガ、本例モ最初治癒傾向少クコレニ娘結節ト認ムベキモノヲ生ジ肋膜炎ヲ起シ肺門側ニ進展シテ逆ニ氣管枝ニ破入セルを酌性物質ハ喀痰トシテ排出セラレ之ヲ嚥下セルコトニョリ小腸ニ結核性潰瘍ヲ形成スルニ至リタルモノナリ。

余ハ旣述ノ如ク廻腸ノ全範圍ニ亙リ治癒傾向著 明ナリシ27個ノ潰瘍ヲ見タリ。ソノ肉眼的所見 トシテハソノ邊緣ハ多少肥厚セルモノアルモ粘 膜層ノ穿入等ナク、又ソノ對側ノ漿膜ニ於テ結 核結節ノ形成ナク唯纖維性ニ肥厚シ居ルモノチ 極メテ少數認メタルノミナルコト及組織的所見 トシテ潰瘍面ハ少量ノ壌死組織ノ附著セルモノ 2個ヲ認メタルモ定型的ノ結核結節ナク唯類上 皮細胞ノ小群簇ヲナセルヲ認メタルノモ、又潰 瘍面ハ結締織繊維増生ト圓形細胞及「プラスマ」 細胞ノ浸潤ヲ見タリ。以上ノ組織像ヨリ見レバ 治癒的傾向明ナル潰瘍ナルコト明ナルモ、コレ ガ單純性ノモノカ或ハ結核性ノモノナルカハ特 斷容易ナラズ、又本例ニ於テハコノ潰瘍面ニ結 核菌ヲ染出スルコト能ハザリシヲ以テ、之ヲ以 テ定型的ノ結核性潰瘍ト見做シ難カランモ肉眼 及組織的所見ヲ總合シ更ニ他ノ小腸部及大腸粘 膜ニハカクノ如キ潰瘍ヲ證明セザリシコト及腸 間膜淋巴腺ニハ特殊ノ變化ナキモ、之ヲ腸「チ フス」性潰瘍、赤痢性潰瘍、加答兒性潰瘍又ハ 消化性潰瘍等トハ鑑別シ得べり結核性ノモノト 考フルハ蓋シ至當ナルベケン。

今余!廻腸潰瘍ヲ他ノ文獻ニ於ケル結核性潰瘍 ト比較スル時ハ從來ノ報告ニ於テハハイエル氏 板二沿ヒテ發生シ長橢圓形ヲナシ、腸ノ縦軸ニ直角ノ方向ニアリ、又コレヲ繞圍スル帶狀ノモノニ多キヲ常トスレドモ、余ノ例ニテハ斯クノ如キ定型的ノモノ極メテ尠ナク廻腸全部ニニン、中間・14.6%ニ於天外、高木氏ハ腸ニニニン、性結核性潰瘍ヲ有セシモノ、中14.6%ニ於テ外、腸ノモニ病變ノ限局セルモノヲ見タリ。又外、海底ヲ粘膜下組織内ニ置ケルモノニテハ潰底ニ相對セル漿膜側ニ於テ結稀織織維ノ増生全クニ相對セル漿膜側ニ於テ結稀織機維ノ増生全クニ相對セル漿膜側ニ於テ結稀織機維ノ増生全クノニを放射を対し、一致シ居ルモ更ニ治癒的傾向ノ著明ナルモノナリ。

ルツ結核性潰瘍ノ治癒ハ粘膜組織ノ増殖、再生 並ピニ化生ト組織内不用物ノ排除、器質化及被 包等ノ機轉ニ依リテ行ハル、モノニシテ比較的 ヨリ遂ニ完全迄清淨トセラル、モノナリ。

今本例ノ潰瘍ハ所見全ク之ニ一致シ比較的ヨリ完全ニ至ル迄淸淨機轉行ハレ居リ且ツ完全ニ治 憲セルモノアリ、即治癒シ又シツ、アル良性 經過ヲ取リ居ルモノナルコトヲ證明シ居レリ。 然ラバ本結核性潰瘍ハ一次性カ或ハ二次性ニ受 生セルモノナリヤ即初感カ轉移或ハ再感ノ何 ナルヤト言フニ、1916年 Ranke 氏結核症が 財變化群ナル命名ニョリテ結核初感染ノ病變 特殊性ヲ明ニシ、更ニ Ghon Potosehnig ノ初 焼が1919年ニ小兒結核ニ於ケル肺及腸ノ初感 、大が1919年ニ小兒結核ニ於ケル肺及腸ノ初感 、大が1919年ニ小兒結核ニ於ケル肺及腸ノ初感 、大が1919年ニ小兒結核ニ於ケル肺及腸ノ初感 、大が1919年ニ小兒結核ニ於ケル肺及腸ノ初感 、大が1919年ニ小兒結核ニ於ケル肺及腸ノ初感 、大類ノ腸ニ於テハ一次性結核ハ少クソノ大 多数ハ續發性ニシテ其原發竈ハ肺ニアルコト多 シトセラレ、本例ニ於ケル廻腸潰瘍モ亦二次性 ニシテ血行性、淋巴行性ニアラザル管内性ノ所 調嚥下結核ナルコト明トナレリ。

次ニ本例ニ於テハ結核菌ハ轉移ナルカ將又再感 染ニ依ルベキャニ就テ攻究セザル可カラザルモ 余ハ右肺ニ於テ結核性病**竈**ラ見出シ居レリ、ソ レ故ニ强チ之ヲ外因的ニ求ムル必要ナシ。

次ニ本例ハ臨床的所見殊ニ血液像ハ悪性貧血ニ 相當シ、病理解剖上ニ於テモ亦大體ニ於テ之ヲ 證認シ居レリ。但シソノ原因ハ不明ナリ。

而シテ結核ニ關スル肺及小腸ノ變化ハ臨床上ニ ハ全然顯ハレズシテ主トシテ賀血像ガ全貌ヲ支 配シ居り、剖檢ニ於テ初メテコレラ發見セルモ ノナリ。然ラバコノ惡性貧血ト結核トノ關係ハ 如何。貧血及萎黄病ハ結核ニ對シ素因ヲ有スル モノト一般ニ想像セラレ居ルヲ以テ、本症患者 ノ貧血ハ結核ノ初期感染ニ對 シ好機會ヲ與ヘタ ルモノナルベク又之が治癒セズ進行性ナルモコ ノ貧血ト一定ノ關係ヲ有スルモノナラン。本例 ノ腸結核ハ更ニ進行性ナラズシテ治癒的傾向著 シキ事實ハ貧血ガ本例ニテハソノ病機ヲ促進シ 居ラザルヲ證シ居ルモノナルカ個體ノ抵抗力ガ 相當ニ旺盛ナルモノアルニ基ケルモノカ或ハ初 期病竈ニ於テサヘ結核菌ヲ證明スルコト尠ナク 況ンヤ腸ノ潰瘍面ニ於テハコレヲ組織的ニ證明 シ得ずリシニ於テヲヤ。ソレ故ニソノ毒勢ノ激 甚ナラザルモノナルハ想像スルコトヲ得ベキラ 以テ、此低下セル毒力ノ爲メニ腸ニ於テカ、ル 良好ノ結果ヲ持チ來タリタルヤモ計リ難シ。兎 ニ角斯ル場合ニ於テハ外因ノ外内因的因子ヲ考 慮二入ルベキモノナラン。

第四章 結論

本例ハ38歳ノ悪性貧血ヲ有スル女屍ニ於テ偶 然發見セル青年期以後ノ感染ニ依ル右肺初感原 發竈ノ治癒傾向尠ナク肺門側ニ進展シテコレガ 氣管枝ニ破入セル結核菌ヲ嚥下セル爲メニ多發 性小腸潰瘍ヲ生ジタルモノナリ。而シテ貧血ハ 初期病竈ノ成立及機轉ニ向ヒー定ノ素因ヲ與ヘ タルモノナルベク又小腸結核ノ治癒的傾向ハ微 弱ナル病毒ト個體ノ抵抗力ノ合働ニ待ツベキモ ノナランカ。

擱筆ニ臨ミ恩師川村教授/御魁篤ナル御指導ト 御校関ラ講謝シ、病症日誌ノ貸與ラ許サレタル 宮永教授及小林透氏ニ感謝ノ意ラ表ス。(本稿ノ 要旨ハ昭和 10 年 9 月 20 日新潟醫科大學病理學 集談會ニ於テ報告セルモノナリ。)

主要文獻

1) Ranke, Primäraffekt, sekundäre und tertiäre Stadium der Lungentuberkulose auf Grund von histologischen Untersuchungen der Lymphdrusen der Lungenpforte., Deut. Arch. f. Kl. Med., B. 2) Ghon u. Potoschnig, Über d. Unterschied im path.-anat. Bilde primären Lungen und Darminfektion b. d. Tbc. d. Kinder, Beitr. z. Kl. d. Tbe., B. 40. 3) R. Aschoff, 人僧 肺結核病,現狀,結核第2卷 (大正13年). 4) W. H. Stefko, Pathologische Anatomie d. Reinfekte u. ihre Bedeutung in der Phthisiogenese. Zeitschrift für Tbc., B. 72, H. 2, 1935. (結核第 13卷,第7號,刀根山松村抄)。 5) 高木直二,腸 結核症ノ病理解剖學的竝ニ組織學的研究. 十全會 雜誌. 第40卷. 第4號. 6) 黑丸五郎, 腸ノ初期 變化群ニ就テ. 結核. 第8卷. (昭和5年). 7) 黑 丸五郎、 腸結核症ノ病理解剖學的研究 (第一報). 结核、第10卷、第4號(昭和7年)。 8) 黑丸五郎, 腸結核症/病理解剖學的研究(第二報). 結核. 第 10卷. 第9號 (昭和7年). 9) 熊谷, 石黑, 腸管 フ結核菌吸收機轉ニ就テ、結核. 第3卷 (大正14 10) 大串、結核菌 / 腸管進入機轉及其 / 年). 病原的意義. 結核. 第3卷 (大正14年). 11) 梅 谷一郎, 腸結核發生ニ關スル實驗的研究. 結核. 第 12卷. 第6號(昭和9年)。 12 平塚隆, 結核ノ 臓器分布ニ關スル綜試. 結核. 第13卷. 第4號(昭 和10年). 13/川村麟也、結核ノ感染及傳播. 臨 **牀醫學.** 第16年. 第9號. 14) 緒方知三郎, 結核 初期感染期ノ變化ニ就テ. 日本ノ陽界. 第14卷. 第 2號 15) 緒方知三郎, 結核/初感染ト再感染. 结核. 第3卷 (大正14年). 16) 緒方知三郎. 肺

結核 / 病理. 醫事新聞. 1255號, 1256號(昭和5年) 17) 岡治道、 結核初期變化群研究補遺. 東京醫學 會雜誌, 第13年, 第2號 (昭和4年). 18) 沓掛 諒、肺臓ノ初期結核ニ就テ. 新潟醫科大學病理學教 室研究報告. 第5輯(昭和3年). 19) 福田宗華, 結核ニ於ケル靜脈角淋巴腺變化ト初期變化群トノ 關係 二就 テ. 新潟 勝科大學病理學數室研究報告. 第1844 20 岡治道、病理解剖學上ヨリ見タル 結核症ノ診斷、結核、第9卷(昭和6年)。 21) 有 馬英, 菊池, 松田、 學齢兒童ノ結核 ニ就テ. 結核. 第8卷 昭和5年)。 22) 有馬英二, 山科, 不破. 肋膜炎發生ニ關スル研究. 第7囘日本結核病學會 總會記事(昭和4年)。 23) 有馬英二,正田豐治, 青年期ノ肺結核ニ関スル研究 (第一報). 特ニ早期 浸潤ニッイテッ觀察. 結核. 第10卷. 第5號 (昭和 24) 小林義雄、「ツベルクリンアレルギ 一」上肋膜炎(肋膜炎/結核感染早期發病論).結核. 第9卷, 第10號 昭和6年)。 25, 小林鑫雄, 青 年期ノ結核感染ト肺結核發病トノ時間的關係. 結 核, 第10卷, 第7號 (昭和7年)。 26) 灌本庄藏, 深谷慶治、 女子青年 看護婦)ニ於ケル「ツベルク リン 反應及結核發病ノ觀察. 北海道監學雑誌 第 11年. 第6號. 27. 横井弓雄、 肺結核患者ノ血 液像. 大阪醫學會雜誌. 第23卷. 第2號(大正13年)。 28) 倉金五郎、血液像ヨリ親タル肺結核ニ就イテ。 結核. 第13卷. 第8號 (昭和10年). 29) 咨掛線, 胸膜炎,病理解剖學的研究。新潟醫科大學病理學 集談會第百囘記念講演會要旨。 30) 柴田經一廳, 消化器 / 貧血. 北越醫學會雜誌. 第50年. 第11號. (昭和10年10月). 31) 倉金五郎, 肺結核患者= 於ケル白血球數二就デ. 結核. 第13卷. 第9號.

附圖說明

第一圖 右肺胸縱隔面

H 硬結部

L1 第一次淋巴腺

L₂ 第二次淋巴腺

Lg 淋巴管

d dd 線切割部

S 肺尖

I 上中葉間截痕

B 氣管枝

A 動脈

坪 附 渝 文 圖 (1) 第 字. (b) -H -Lg S 2 第 品 第 3 모 [0] `.H~ Т.Н -Т.В

抻 (2)第 显 G 豆 闽 第 5

V	静脈	G	潰瘍部
第二圖	dd 線部切割面	第五圖	結核性廻腸潰瘍ノ 撃入部ニ於 ケル 圓柱形上
S	肺尖		皮細胞ノ再生(擴大約 34 倍)
Т. Н.	結核病竈	R	潰瘍邊綠
第三圖	ff 線部切割面ニ於ケル氣管枝病鑑ノ 管腔中	U	整入部
	ニ充備セル膿様物質中ノ結核菌(擴大約 1300	В	潰瘍底
	倍)	C	圓柱形上皮細胞
T. B.	結核菌	第六圖	第五圖○部ノ强擴大(擴大約 330 倍)
第四圖	廻 踼 丿結核性潰瘍	C	圓柱形上皮細胞